

# 哲學研究

第五百七十九號

平成十七年四月十日發行

彙報

近世日本絵画の熟成……………

——日本の美意識構築に見る室町期の思想の影響——

佐々木丞平

コミュニケーションと倫理学(上)……………

水谷雅彦

カントと「真正な生」……………

三谷尚澄

障害状況 (breakdown) からの存在論……………

松本直樹

——ハイデガー『存在と時間』における

存在と無との関係について——

京都大學大學院文學研究科内

京都哲學會

## 京都哲学会規約

- 一、本会は広義における哲学の研究とその普及を図ることを目的とする。
- 二、右の目的のために左の事業を行う。
  - (一) 会誌「哲学研究」を発行する。
  - (二) 毎年公開講演会を開く。
  - (三) 随時研究会を開く。
- 三、本会の事業を遂行するために委員若干名をおく。委員の中から互選により代表一名をおく。委員は京都大学大学院文学研究科の旧哲学科系所属教官の有志、および委員会において推薦したものに委嘱する。
- 四、委員会の中に「哲学研究」の編集委員会をおく。
- 五、本会は賛助員若干名をおく。賛助員は会員の中から委員会が推薦する。
- 六、本会は会員組織とし、会員には資格の制限を設けない。学校・図書館・其他の団体は団体の名を以て入会することができる。
- 七、会員は年会費一、〇〇〇円と会誌代五、〇〇〇円（数冊分）を前納する。
- 八、会員は会誌の配布を受け会誌に予告する諸種の行事に参加することができる。
- 九、本会は事務所を京都大学大学院文学研究科内におく。
- 十、規約の改正は委員会の決定による。

\*  
中 德 出 田 杉 佐 櫻 小 氣 川 片 落 苧 内 宇 岩 伊 伊 板 池 芦 蘆 赤  
村 畑 永 口 中 村 木 井 林 多 添 柳 合 阪 山 井 美 城 藤 藤 倉 田 名 田 松  
俊 正 宗 康 紀 靖 丞 芳 道 雅 信 榮 恵 直 勝 惣 文 見 邦 和 昭 秀 定 明  
春 志 雄 夫 行 彦 平 雄 夫 子 介 一 子 行 利 七 理 一 武 行 二 三 道 宏 彦

京都哲学会委員

御水松寶藤藤福根  
 (\* 京都哲学会代表)  
 牧谷田月田田谷立  
 克雅素正和研  
 己彦二誠勝生茂介

前号目次

特集「心の科学」	
神経回路網による情報の表現……櫻井芳雄	
新世界ザルにおける「こころ」の理解	
……黒島妃香／服部裕子／藤田和生	
成り立つ心……板倉昭二	
——赤ちゃんの心の発達——	
身体制御と錯視……蘆田宏	
——手は騙されないか——	
デカルト的意識の脳内表現……苧阪直行	
——心の理論からのアプローチ——	
* * *	
カント《Opus Postumum》の哲学史的	
位置について……福谷茂	
自然の第一の法……深谷訓子	
——十七世紀初頭のネーデルラント絵画における	
「キモンとペロー」——	

次号論文予告

特集「始源の思索」	
古代インド「六色説」の起源について	
……赤松明彦	
語源と慣用……赤松明彦	
——ことばの起源をめぐるインド的考察——	
アテイシャの論理学に対する立場	
——チベット仏教の一起源——	
中国藝術論史序説……宇佐美文泉	
(題目未定)……金山弥平	
プラトンとミュートス……國方栄二	
* * *	
コミュニケーションと倫理学(下)	
……水谷雅彦	

会 告

一、本会は会員組織とし会員には資格の制限を設けません。入会希望の方は京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科内京都哲学会（振替口座〇一〇二〇一―一四〇三九 京都哲学会）宛に年会費一、〇〇〇円と会誌代五、〇〇〇円（数冊分をお支払下さい。又会員への会誌送付、バックナンバー購入及び発売に関する一切は東京都千代田区麹町二―六―七創文社（振替口座〇〇―一二〇―〇―九二四七二）宛に願います。

一、会員の転居・入退会の事務及び編集事務の一切は京都哲学会宛に御通知下さい。

一、本誌の編集に関する通信・新刊書・寄贈雑誌等は本会宛にお送り下さい。

一、本誌への論文の投稿は、原則として本会会員のみ受け、掲載の可否については、編集委員会と編集委員会とで委嘱した委員（若干名）の査読を経て、編集委員会と決定する。（本会主催の公開講演会の講演原稿の掲載など、編集委員会依頼による論文掲載については、この限りではない。）

京 都 哲 学 会

〒六〇六一八五〇一  
京都市左京区吉田本町  
京都大学大学院文学研究科内  
（〇七五―七五三―一七三三）

平成十七年 四月五日 印刷  
平成十七年 四月十日 発行

編集兼 京 都 哲 学 会  
発行人 京 都 哲 学 会  
編集委員

伊 藤 邦 武  
氣 多 雅 子  
内 井 愼 七  
赤 松 明 彦

発 売 所 株 式 創 文 社

久 保 井 浩 俊

〒一〇二一〇〇八三  
東 京 都 千 代 田 区 麹 町 二 一 六 一 七  
電 話 〇 三 一 三 二 六 三 一 七 一 〇 一  
振 替 〇 〇 一 一 二 〇 〇 九 二 四 七 二

印 刷 所 株 式 会 社 曉 印 刷

註 文 規 定

一、本誌の御注文はすべて代金送料共（一部、送料七  
三円）前金にてお送り下さい。

THE JOURNAL  
OF  
PHILOSOPHICAL STUDIES

THE TETSUGAKU KENKYU

---

---

NO. 579

April

2005

---

---

Articles

*The Maturation of Japanese Painting in the Early Modern Period*  
—The Influence of Muromachi-period Thought in the Construction  
of the Aesthetic Sensibility of Japan— ..... Johei SASAKI

*Communication and Ethics I* ..... Masahiko MIZUTANI

*Kant and Authentic Life* ..... Naozumi MITANI

**“Breakdown Condition”**

—vom Zusammenhang zwischen Sein und Nichts in M. Heideggers  
Sein und Zeit— ..... Naoki MATSUMOTO

Notes

Published by  
THE KYOTO PHILOSOPHICAL SOCIETY  
(The Kyoto Tetsugaku-Kai)  
Kyoto University  
Kyoto, Japan

ISSN 0386-9563

雑誌コード 06427-4 定価 2,625 円 (5%税込) 本体 2,500 円